



事後保全から予防保全への転換

- 高度経済成長期に集中して建設された多くの橋梁等の道路構造物の高齢化が急速に進んでいく状況であり、一部の橋梁等に損傷が発生している事例も見られます。一方、多くの道路構造物は地方公共団体が管理しており、これらの予防保全対策を推進することが重要なものの、技術、資金、人員不足等の課題により定期点検の実施が進んでいない状況が見受けられます。（国土交通省調べ）
- このため大切な資産である道路ストック(資産)を長く大事に保全し、安全で安心な道路機能の確保するため、点検により早期に損傷を発見し対策を実施することで、「事後保全」から「予防保全」への転換を図ります。
- また北海道開発局では、地方公共団体等関係機関と連携を図りつつ、人材育成や各種技術支援に取り組んでいます。

橋梁点検による損傷の発見と迅速な対応事例



橋梁点検にて重篤な損傷を発見
(1964年建設 供用年数58年)

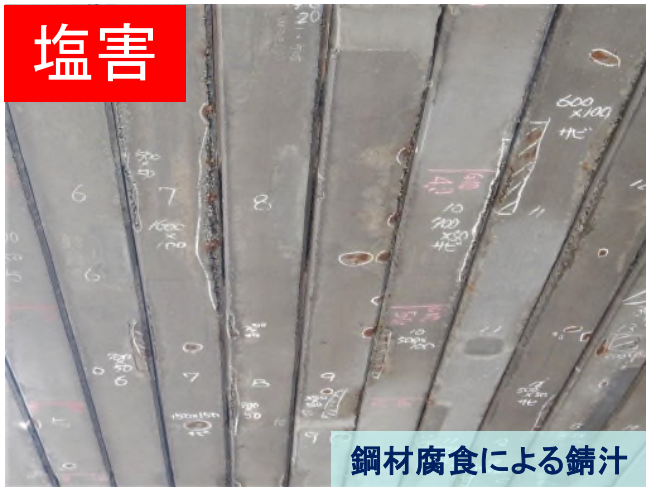


橋台コンクリート
打ち替えによる対策を実施



橋梁の損傷事例（代表的な損傷例）

塩害



鋼材腐食による錆汁

塩害



主桁にひびわれ

凍害



コンクリート剥離

凍害



コンクリート剥離

腐食



鋼材の腐食

腐食



鋼材の腐食



橋梁の補修事例

- 一般国道240号恩根木禽橋において、平成29年度に実施した定期点検により、雨水の浸透による凍害等が原因と推定される床版の損傷を確認。令和3年度に補修を実施。

■位置図



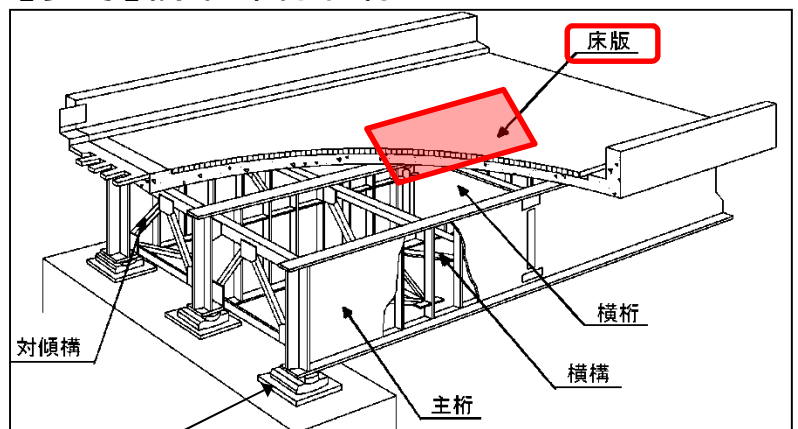
■概要

施設名：恩根木禽橋(おんねききんばし)
 路線：国道240号
 位置：津別町双葉
 橋種：単純合成鉄桁橋2連
 橋長：37.1m(2径間)
 幅員：10.0m(有効幅員9.0m)
 竣工：1961年(建設後61年)

■全景写真



【参考】橋梁部材名称



■補修状況

補修前



床版下面の損傷(ひびわれ、漏水)

補修後



床版下面の補修(炭素繊維接着補強)



橋梁の補修事例

- 一般国道238号新浅茅野橋において、平成28年度に実施した定期点検により、凍害が原因と推定される橋脚の損傷を確認。令和3年度に補修を実施。

■位置図



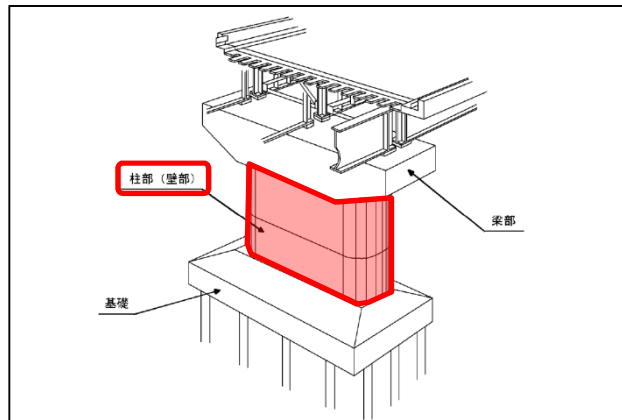
■概要

施設名：新浅茅野橋(しんあさじのはし)
 路線：国道238号
 位置：猿払村猿払
 橋種：単純合成鈑桁橋5連
 橋長：147.6m(5径間)
 幅員：8.0m(有効幅員7.0m)
 竣工：1968年(建設後54年)

■全景写真



【参考】橋梁部材名称



■補修状況

補修前



橋脚の損傷(剥離・鉄筋露出、うき)

補修後



橋脚の補修(断面修復)